



令和7年4月勉強会

もう一つのAI

Apple Intelligence

**2025年4月12日
TT_Takatsuki**

はじめに

- 皆さん、こんにちは。今日は、Appleという会社が作った新しいAI（アップル・インテリジェンス「頭のいい機能」）について、わかりやすくお話しします。
- AI 技術は、私たちの生活に大きな影響を与え始めています。例えば、スマートフォンの音声アシスタントや、オンラインショッピングのレコメンデーション機能などは、すでに AI の恩恵を受けています。
- Apple は、この AI 技術に大きな可能性を感じており、長年にわたって研究開発を続けてきました。そしてついに、Apple Intelligence という形で、その成果を提供します。

Apple intelligenceとは

- Apple Intelligence は、Apple が開発した AI プラットフォームです。最大の特徴は、オンデバイス処理（端末上での処理）に重点を置いていることです。
- 従来の AI は、クラウドサーバーで処理を行うことが多かったため、プライバシーの問題や、処理速度の遅延などが課題としてありました。
- Apple Intelligence では、デバイス上で直接 AI 処理を行うため、これらの課題を解決することができます。
- また、Apple 製品のエコシステムとの連携も重視されており、iPhone, iPad, Mac など、様々なデバイスでシームレスな体験を提供出来ます。

Appleが「今」AIに注力する主な理由は



- ・ ユーザー体験を大幅に向上させるため、より直感的でパーソナライズされた体験を提供しようとしています

技術革新を推進し、この分野でリーダーシップを発揮するためです

長年提供してきたSiriなどの既存製品・サービスを大幅に強化するためです

Apple Intelligenceはプライバシーを保護しながら高度なAI機能を提供することを目指しています

他のテクノロジー企業との競争において競争力を維持・強化するため、自社に最先端のAI技術を組み込もうとしています

Apple Intelligence で出来ること

- Apple Intelligence でできることは、多岐にわたります。
- 例えば、写真アプリでは、AI が写真の内容を解析し、自動的にタグ付けや分類を行うことができます。
- 声で話しかけるSiri（シリ）も、もっとかしこくなって、ちゃんと会話ができるようになります。難しいことも、言えばやってくれるようになります。
- テキスト入力では、AI が文脈を理解し、より正確な予測変換やスペルチェックを提供します。
- また、複数のアプリ間で連携し、タスクを自動化することも可能です。
- さらに、ユーザーの利用状況に合わせて、パーソナライズされた提案やおすすめを行うこともできます。

これまでのAIとの違い

- 従来の AI は、クラウドサーバーで処理を行うため、プライバシーの問題や、処理速度の遅延などが課題としてありました。
- Apple Intelligence では、オンデバイス処理を行うことで、これらの課題を解決することができます。
- また、Apple 製品のエコシステムとの統合により、シームレスな体験を提供できるのも、Apple Intelligence の強みです。

Apple Intelligence がもたらす未来

- Apple Intelligence は、私たちのデバイス体験をよりスマートに、より快適にするだけでなく、生活の質を向上させる可能性も秘めています。
- 例えば、健康管理アプリと連携し、健康状態を分析したり、パーソナライズされたアドバイスを提供したりすることができます。
- また、教育分野では、AI が個々の学習状況に合わせて、最適な教材や学習プランを提案することも可能です。

まとめ

- Apple Intelligence は、AI 技術の新たな可能性を示すものです。
- Apple 製品の利用体験を劇的に向上させ、私たちの生活をより豊かにしてくれると期待されます。
- 今後、Apple Intelligence がどのように進化していくのか、注目していきたいと思います。

Apple Intelligenceをもう少し深く理解するために、気になるトピックスについて調べてみました。

	Appleの歴史と主な出来事	Microsoftと比較
	Apple	Microsoft
1976年	Apple Computer Companyを設立。	
1977年	Apple IIを発表。パソコン市場に参入。	
1980年	Apple IIIを発表。	
1981年		MS-DOS 1.0を発表。IBM PCに採用される。
1983年	Lisaを発表。GUIを搭載。	Microsoft Word 1.0を発表。
1984年	Macintoshを発表。マウスとGUIを採用。	
1985年	スティーブ・ジョブズがAppleを退社。	Windows 1.0を発表。
1990年		Microsoft Officeを発表。
1997年	スティーブ・ジョブズがAppleに復帰。	Appleに1億5000万ドルを出資。
1998年	iMacを発表。	Windows 98を発表。
2001年	iPodを発表。音楽プレーヤー市場に参入。	Xboxを発表。家庭用ゲーム機市場に参入。
2007年	iPhoneを発表。スマートフォン市場に参入。	
2010年	iPadを発表。タブレット市場に参入。	
2011年	スティーブ・ジョブズが死去。	
2015年		Windows 10を発表。
2019年		OpenAI社と戦略的提携
2024年	Apple Intelligenceを発表	

Apple社の社風

革新性と独立性:、既存の枠にとらわれない革新的な発想や、独立した気風が重視されていたと考えられます。

ブランドイメージへの強いこだわり: ブランドイメージを徹底的に管理しようとする姿勢が見られます。

完璧主義: 細部にまでこだわる完璧主義のような社風が伺えます。

自社主義と垂直統合: ハードウェア、ソフトウェア、一部のサービスを自社で開発し、外部との協業よりも自社で全てをコントロールしようとする自社主義の持ち主

高品質志向: 全ての要素を自社で管理することにより、一貫した高い品質を維持しようとする意図が見られます。

秘密主義: 新製品や技術に関する情報が発表まで厳格に管理される傾向があります

Siriの変遷

Siriとは、**S**peech **I**nterpretation and **R**ecognition **I**nterface（発話解析及び認識**I/F**）の略称です。2011年iPhone 4Sに搭載されたSiriは、自然言語での対話型アシスタントを普及させ、市場に衝撃を与えました。しかし、競合が高度なAIアシスタントを開発する中、Siriの進化は遅れがちでした。機能は増えたものの、理解力や対応範囲で後発に劣るという声も聞かれます。近年では、自然なAIアシスタントが増え、Siriのぎこちなさや誤解が目立ち、使いにくい、期待外れとの評価も少なくありません。

Siriを軸にApple intelligenceを展開する戦略



2007年: SRIのスピンアウトとしてSiri社が設立されました。

2010年4月28日: AppleがSiri社を買収しました。

2011年10月4日: iPhone 4SにSiriを初めて搭載しました。

2012年3月8日: 日本語に対応しました。

2024年6月10日: WWDC 2024の基調講演で、2024年秋よりApple IntelligenceとChatGPT（GPT-4o）による生成AIをSiriに搭載する計画が発表されました。

2025年4月: iOS/iPadOS 18.4およびmacOS Sequoia OS 15.4にて、日本語を含むより多くの言語と地域でApple IntelligenceによるSiriの機能拡張が予定されています

「Apple Intelligence」では何が変わる



Siriの強化：より賢く、より便利に、よりパーソナルなアシスタントへと進化する

文章作成支援：メールやメモ、Pagesアプリでの文章の書直し、校正、要約 できます

音声録音と文字起こし：「メモ」や「電話」アプリで音声を録音し、自動的に文字起こしと要約が行えます。

画像生成：テキスト入力や写真の人物をもとに、オリジナルの画像を生成できます。

写真編集：背景に写り込んだ不要な画像を簡単に削除できます

写真・ビデオ検索：音声で写真やビデオ内の特定のシーンを検索できます。

カスタム絵文字作成：入力したテキストによって、オリジナルの絵文字を作成します

メモアプリでの画像生成：「Image Wand」機能を使用して、手書きの円を描くだけで関連する画像を生成し、メモに挿入できます。

Apple Intelligenceのリリース経緯

iOS 18.1 : 2024年10月28日 アメリカ国内のみ
Apple Intelligenceを利用できるようになりました。

iOS 18.2 : 2024年12月12日 Apple Intelligenceの機能が拡張
され、アメリカ以外の英語圏でも利用可能になりました。

iOS 18.3 : 2025年1月27日 AppleはiOS 18.3において、ニュー
ースとエンターテインメントアプリの通知要約機能を
一時的に無効化しました。（次のスライドで説明します）

iOS 18.4 : 2025年4月 1 日 日本他多くの地区にApple Intelligence
の機能が提供されました。

2025年1月のiOS18.3 AIに関する説明

iOS 18.3、ニュースの通知サマリーを一時的に削除

iOS 18.3アップデートにおいて、Appleは通知をまとめて1つのメッセージに表示する「通知サマリー」機能に変更を加えました。エラーのため、ニュースとエンターテインメントカテゴリではこの機能が一時的に無効化され、今後のソフトウェアアップデートで復旧予定です。設定アプリには、通知サマリーがベータ機能であり、エラーが含まれる可能性がある旨の警告が追加されました。サマリーは従来の通知と区別するため、イタリック体で表示されるようになりました。ユーザーはロック画面から個々のアプリの通知サマリーを直接管理できます。Appleは、この機能が誤った見出しを表示し、顧客を混乱させているという苦情を受けてこれらの変更を行いました。ニュース記事から誤った詳細情報を取り込むことで、不正確なサマリーが作成されるという問題が発生していました。Appleは今後のソフトウェアアップデートで、Apple Intelligenceによって通知が要約されている場合を明確にするよう、この機能を更新する予定です。通知サマリーは他の種類のアプリでは引き続き使用でき、設定アプリで完全にオフにすることも可能です。この機能は、iOS 18.1以降を搭載した対応デバイスで使用できます。

残念ながら

Apple Intelligenceによる新しいSiriのリリース
は2026年以降に延期されました

Apple says some AI improvements to Siri delayed to
2026

By Stephen Nellis

March 8, 2025 2:35 AM GMT+9 Updated 18 days ago

Reuters

4 月リリースのiOS18.4で出来ると予想される機能

Siriを除くほとんどの機能は実現出来そうです

文章作成支援：メールやメモ、Pagesアプリでの文章の書き直し、校正、要約 できます

音声録音と文字起こし：「メモ」や「電話」アプリで音声を録音し、自動的に文字起こしと要約が行えます。

画像生成：テキスト入力や写真の人物をもとに、オリジナルの画像を生成 できます。

写真編集：背景に写り込んだ不要な画像を簡単に削除 できます

カスタム絵文字の作成：入力したテキストに基づいて、オリジナルの絵文字を作成 できます。

メモアプリでの画像生成：「Image Wand」機能を使用して、手書きの円を描くだけで関連する画像を生成し、メモアプリに挿入 できます。

新しい**Siri**で2026年
真のApple Intelligenceを実現へ！

ご清聴有難うございました